

平成24年度病害虫発生予報第3号

長崎県病害虫防除所長

【予報の概要】

農作物名	病 害 虫 名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
早期水稻	いもち病（葉いもち） 紋枯病	並 並	並 並
水稻共通	ヒメトビウンカ（防除情報第6号） 縞葉枯病（防除情報第6号） ツマグロヨコバイ 萎縮病 セジロウンカ トビイロウンカ コブノメイガ	並 やや多 並 並 並 並 並	並 やや多 並 並 並 並 並
いちご （育苗床）	うどんこ病 炭疽病（ <i>G. cingulata</i> ） （防除情報第7号） ハダニ類	やや多 並 並	やや多 並 並
アスパラガス	アザミウマ類	やや多	やや多
かんきつ	かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ ヤノネカイガラムシ	やや少 並 並 やや少 並	やや少 並 並 やや少 並
びわ	がんしゅ病 灰斑病 ナシヒメシンクイ	やや少 やや少 並	やや少 やや少 並
なし	黒星病 ナシヒメシンクイ	やや多 並	やや多 並
ぶどう	べと病 黒とう病 チャノキイロアザミウマ	やや少 並 やや少	並 並 やや少
果樹共通	カメムシ類	並	並
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	やや多 並 並 やや多 並 やや多 やや多	やや多 並 並 やや多 並 やや多 やや多

早期水稲

1. いもち病(葉いもち)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、葉いもちの発病株率は0.1%(0.0%)、発生圃場率は2.4%(0.4%)であった。

イ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

ウ 葉いもちの感染に好適な条件を満たした日は下表のとおりである(葉いもち感染好適条件判定モデルによる。詳細はホームページを参照)。

	6月1日	6月2日	6月3日	6月4日	6月5日	6月6日	6月7日	6月8日	6月9日	6月10日	6月11日	6月12日	6月13日	6月14日
長崎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐世保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-
島原	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平戸	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
松浦	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
厳原	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
芦辺	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福江	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大瀬戸	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
口之津	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

発生指標	? : 判定不能	- : 好適条件なし	1 : 準好適条件1	2 : 準好適条件2	3 : 準好適条件3	4 : 準好適条件4	: 好適条件
------	----------	------------	------------	------------	------------	------------	--------

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、発生を認めなかった(発生圃場率0.2%、発病株率0.0%)。

イ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

水稲共通

1. ヒメトビウンカと縞葉枯病

平成24年6月15日付け病害虫発生予察防除情報第6号による。

2. ツマグロヨコバイと萎縮病

(1) 予報内容

発生程度 ツマグロヨコバイ 並
萎縮病 並

(2) 予報の根拠

ア 5月下旬のイネ科雑草地(2地点)から採集したツマグロヨコバイ(第1世代)についてイネ萎縮ウイルスの保毒虫率検定を行った結果、保毒虫率は0%(0%)であった。

- イ 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、早期水稻におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は0.1頭(0.1頭)、発生圃場率は53.7%(20.6%)であった。萎縮病の発生は認めなかった(発生を認めない)。
- ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稻におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は1.6頭(1.6頭)であった。萎縮病の発生は認めなかった(発生を認めない)。

3. セジロウンカ、トビイロウンカ

(1) 予報内容

発生程度	セジロウンカ	並
	トビイロウンカ	並

(2) 予報の根拠

ア セジロウンカは、5月15日にネットトラップ(諫早市)で初確認した。その後、6月8~9日にかけて飛来があった。トビイロウンカは、6月14日現在でネットトラップ及び予察灯での誘殺を認めていない。

イ 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、早期水稻におけるセジロウンカの株当たり虫数は0.0頭(0.1頭)、発生圃場率は34.1%(20.1%)であった。トビイロウンカの発生は認めなかった(発生を認めない)。

ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、早期水稻、無防除)調査の結果、セジロウンカの株当たり虫数は0.0頭(1.0頭)であった。トビイロウンカの発生は認めなかった(発生を認めない)。

(3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する。

4. コブノメイガ

(1) 予報内容

発生程度	並
------	---

(2) 予報の根拠

ア 6月8日にフェロモントラップ(諫早市)で誘殺を初確認した。

イ 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、早期水稻において食害株及び成・幼虫の発生は認めなかった(食害株率発生を認めない、10m²当たり成虫数0.0頭)。

ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、早期水稻、無防除)調査の結果、食害株及び成・幼虫の発生は認めなかった(食害株率0.3%、成虫の10m²当たり虫数0.0頭)。

(3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度	やや多
------	-----

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は12.6%(9.7%)、発生圃場率は60.6%(51.5%)であった。

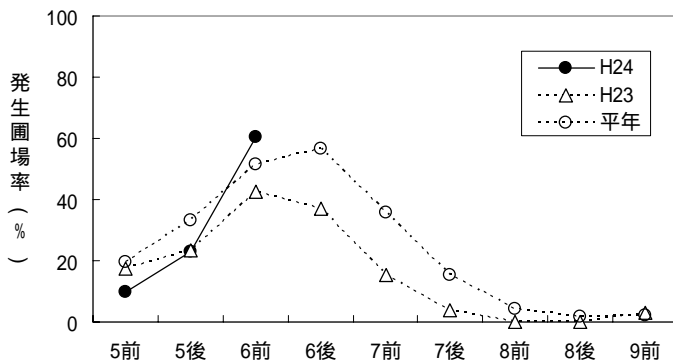


図 うどんこ病 発生圃場率の推移 (巡回調査)

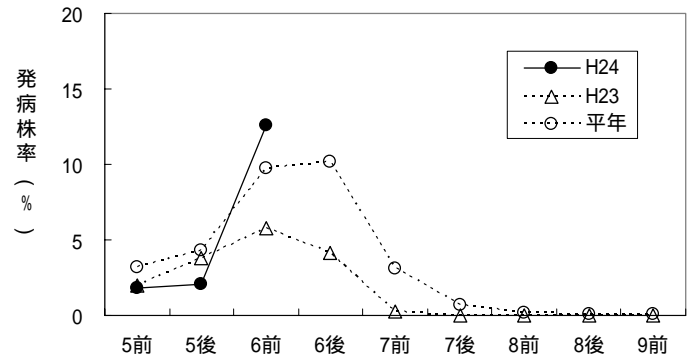


図 うどんこ病 発病株率の推移 (巡回調査)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 多発すると防除が困難になるので、本病が発生しやすい葉裏をよく観察し、早期発見、早期防除に努める。
- イ 薬剤は、葉裏や下位葉にむらなくかかるように十分量を散布する。
- ウ 薬剤耐性菌発達の防止のため、系統の異なる薬剤をローテーション散布する。
- エ 子苗(ランナー)を切り離れた後、親株は早期に除去し処分する。
- オ 雨よけ育苗では発生が多くなる傾向があるので注意する。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

平成24年6月15日付け病害虫発生予察防除情報第7号による。

3. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(33筆)の結果、寄生株率は1.9%(1.4%)、発生圃場率は21.2%(17.9%)であった。

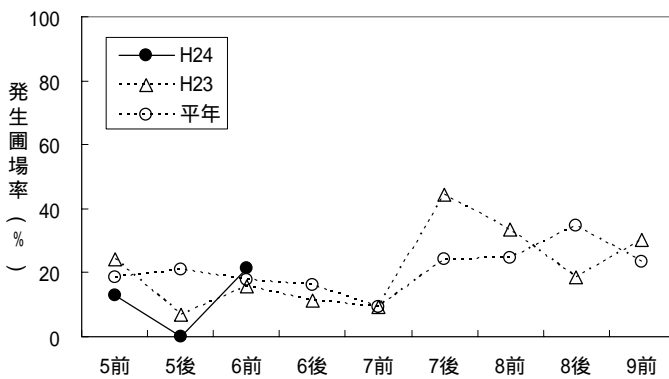


図 ハダニ類 発生圃場率の推移(巡回調査)

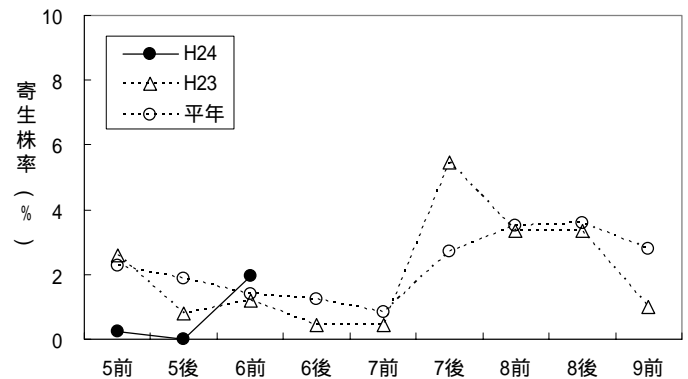


図 ハダニ類 寄生株率の推移(巡回調査)

アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(9筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所)は40.3頭(過去5カ年平均19.5頭)、発生圃場率は77.8%(過去5カ年平均70.4%)で、一部多発圃場が認められた。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用せず、ローテーション散布を行う。

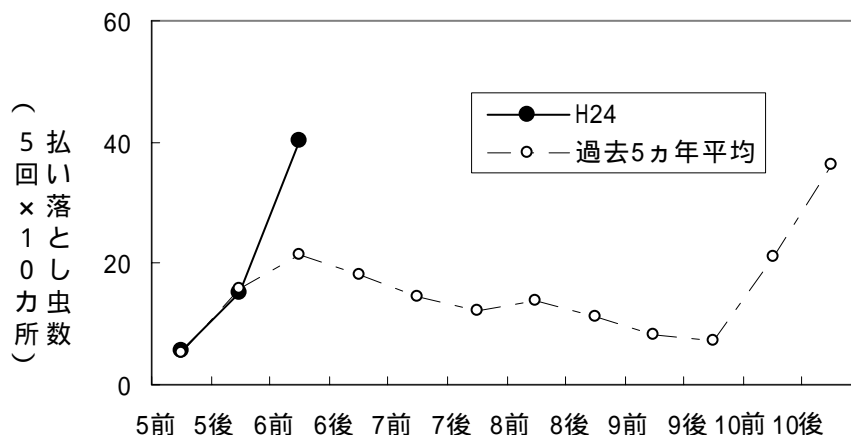


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移(巡回調査)
払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

かんきつ

1. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発病葉率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は2.8%(9.6%)であった。

2. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率0.0%)。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は10.0%(7.2%)、発生圃場率は50.0%(46.5%)であった。

4. チャノキイロアザミウマ

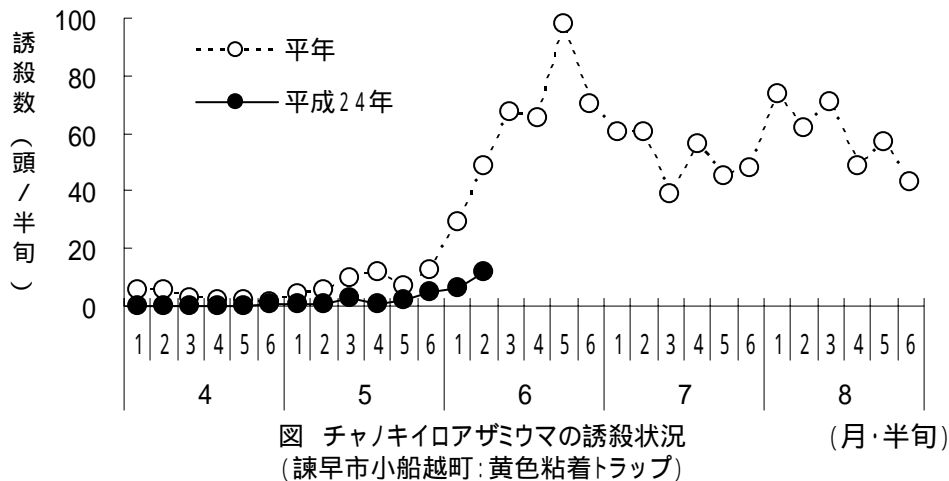
(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発生を認めなかった(被害果率0.0%、発生圃場率0.5%)。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市小船越町)による誘殺量は、平年より少なく推移している(図)。



(3) 防除上注意すべき事項

- ア 下表の予測発生ピーク日5日前から発生ピーク日に薬剤散布をすると防除効果が高い。
- イ ただし、発生が多い園では1果当たりの寄生虫数が、0.1頭に達する前に防除を行う。
- ウ 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

表 チャノキイロアザミウマ発生予測プログラムによる成虫の予測発生ピーク日

地点	長崎	佐世保	大瀬戸	口之津	平戸	長崎 (平年値)
第2世代	6/8	6/8	6/15	6/9	6/20	6/9
〃 (前年)	6/13	6/14	6/23	6/14	6/25	-
第3世代	6/30	7/1	7/8	7/1	7/12	7/1
〃 (前年)	7/4	7/5	7/13	7/4	7/15	-
標高(m)	27	4	43	10	58	27

注1：気温データは各地域のアメダスデータを使用し、平成24年6月13日までは観測値を、6月14日以降のデータは平年値を使用した(表中の地名：アメダス地点)。
 注2：同一地区内でも、山間部では予測発生ピーク日が異なる場合があるので注意する。また、降雨等により予測日が変動する場合がある。

5. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発生を認めなかった(寄生葉率0.0%、発生圃場率0.3%)。

(3) 防除上注意すべき事項

各地区の防除適期(有機リン剤の場合、初発日の40日後)は下表のとおりと予測される。

表 ヤノネカイガラムシの防除適期

地点	長崎	大村	島原	口之津	大瀬戸	佐世保	松浦	平戸	福江	石田	厳原	長崎 (平年値)
初発生予測日	5/9	5/10	5/9	5/8	5/10	5/9	5/11	5/11	5/7	5/11	5/12	5/8
前年予測日	5/12	5/14	5/13	5/12	5/13	5/13	5/15	5/15	5/12	5/15	5/15	-
IGR剤防除日	6/3	6/4	6/3	6/2	6/4	6/3	6/5	6/5	6/1	6/5	6/6	6/2
有機リン剤防除日	6/18	6/19	6/18	6/17	6/19	6/18	6/20	6/20	6/16	6/20	6/21	6/17
標高(m)	27	3	9	10	43	4	5	58	25	26	4	27

注1：初発予測は「果樹防除適期判定システム（ヤノネカイガラムシ）」を利用した。

注2：初発日は気象庁アメダスの気温データを用いて算出した。

注3：同一地区内の圃場でも、標高や土地条件により気温が異なり、予測ピーク日が前後する場合がありますので注意する。

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査（10筆）の結果、発生枝葉率は0.7%（1.7%）、発生圃場率は40.0%（47.5%）であった。

2. 灰斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査（10筆）の結果、発病枝葉率は3.0%（9.1%）、発生圃場率は50.0%（87.5%）であった。

3. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査（10筆）の結果、発生を認めなかった（寄生枝葉率0.0%、発生圃場率1.3%）。

イ フェロモントラップ（諫早市小船越町）の誘殺量は平年並で推移している（図）。

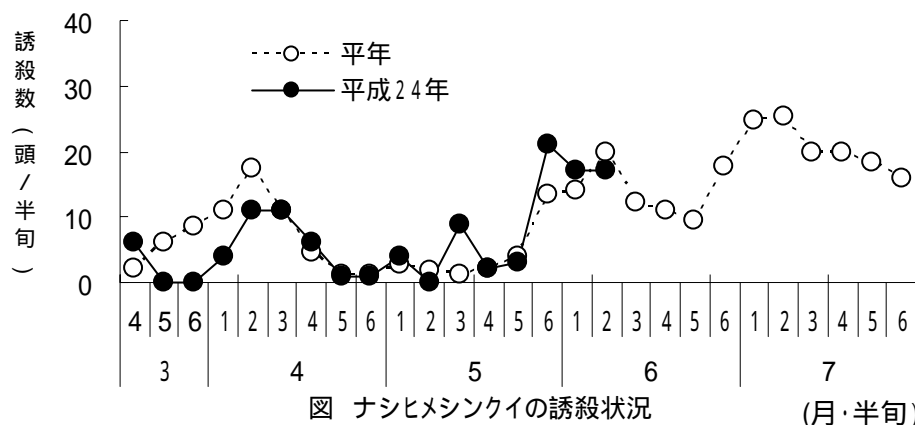


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況
(諫早市小船越町:フェロモントラップ)

なし

1. 黒星病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発病葉率は1.6%(1.0%)、発生圃場率は36.4%(37.0%)で、一部多発圃場が見られた。

(3) 防除上注意すべき事項

ア スピードスプレーヤで散布する場合は全列走行とし、圃の周囲等で薬液が到達しにくい場所は手散布を併用する。

イ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤の連用を避ける。

2. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

フェロモントラップ(諫早市小船越町)での誘殺量は平年並で推移している(びわの項参照)。

ぶどう

1. ベと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.1%、発生圃場率3.1%)。

イ 昨年の発生が多かったため、病原菌の越冬量は多いと予想される。

2. 黒とう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、葉では、発病葉率は0.7%(0.2%)、発生圃場率は16.7%(12.5%)であった。また果房では、発病果房率は0.1%(0.0%)、発生圃場率は8.3%(1.0%)であった。

3. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(被害果房率0.4%、発生圃場率10.4%)。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年より少なく推移している(かんきつの項参照)。

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 各地区のフェロモントラップの誘殺量は平年並で推移している。

イ 6月上旬のかんきつ、びわ、なしにおける巡回調査の結果、圃場への飛来を認めなかった。

ウ 病害虫防除員の報告によると、一部のかんきつ及びなし園への飛来が認められている。

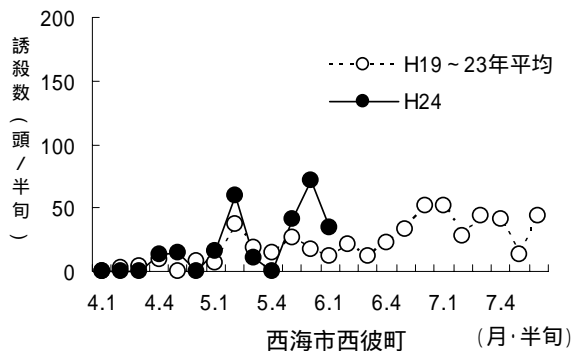
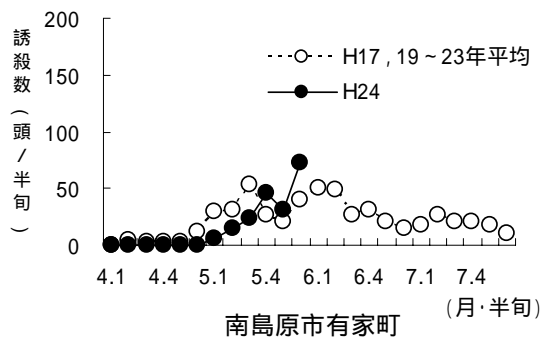
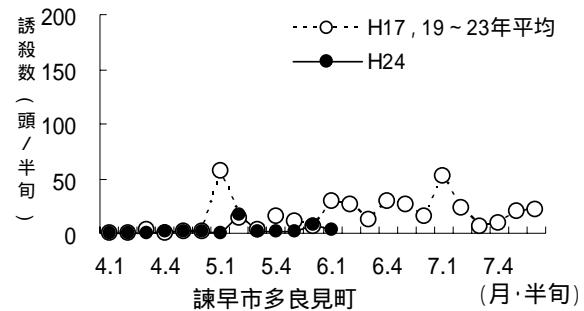
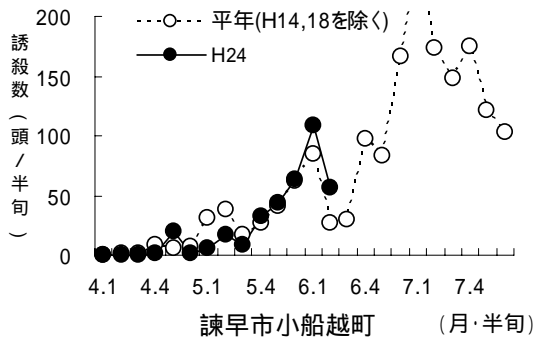


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況（黄色コガネコール）

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査（20筆）の結果、1㎡当たり発病葉数は3.9枚（0.4枚）、発生圃場率は50.0%（19.1%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤耐性菌が発生しやすいので、同一薬剤を連用しない。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査（20筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は16.1頭（17.8頭）、発生圃場率は95.0%（80.6%）であった。

3. チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(1㎡当たり平均巻葉数0.1枚、発生圃場率6.6%)。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は平年並で推移している(図)。

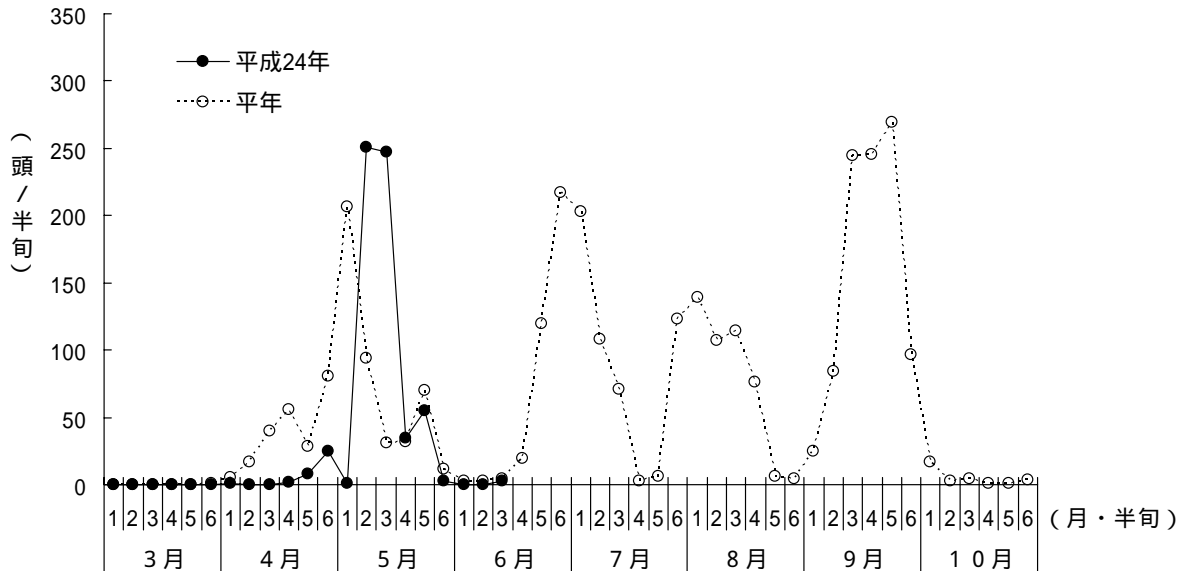


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

4. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は0.0枚(0.0枚)、発生圃場率は5.0%(5.0%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は、6月1半旬にピークが見られ、やや多く推移している(図)。

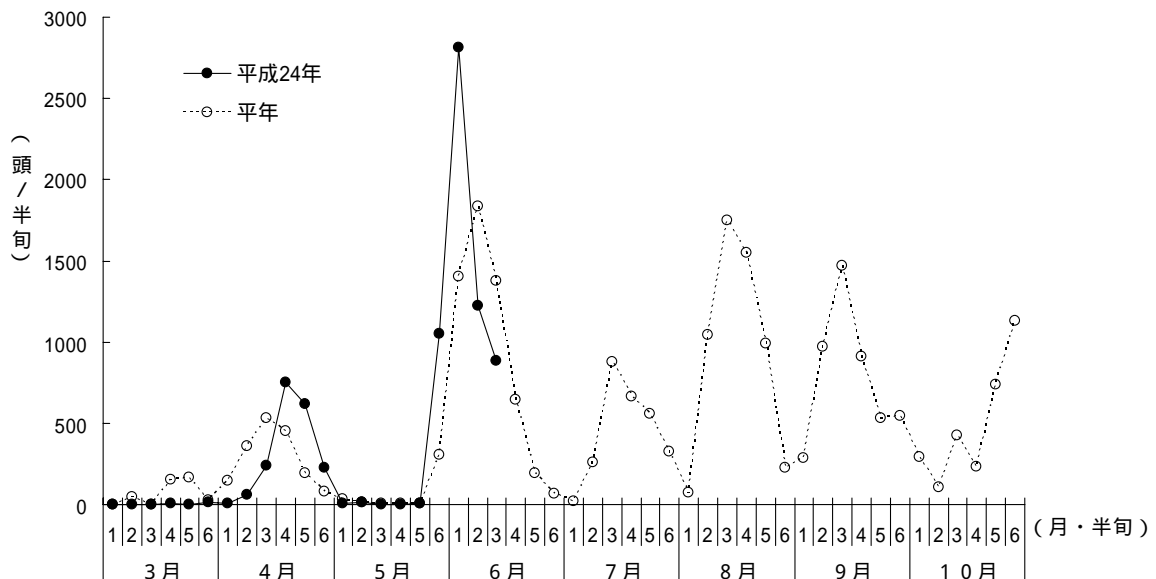


図 チャノホソガの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

5.カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は1.4%(1.5%)、発生圃場率は20.0%(14.5%)であった。

6.チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は3.7頭(1.8頭)、発生圃場率は70.0%(47.5%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

7.クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は23.0%(6.2%)、発生圃場率は60.0%(36.9%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発生が多い圃場では、第2世代の防除を行う。

【参考】
気象

(平成24年6月15日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

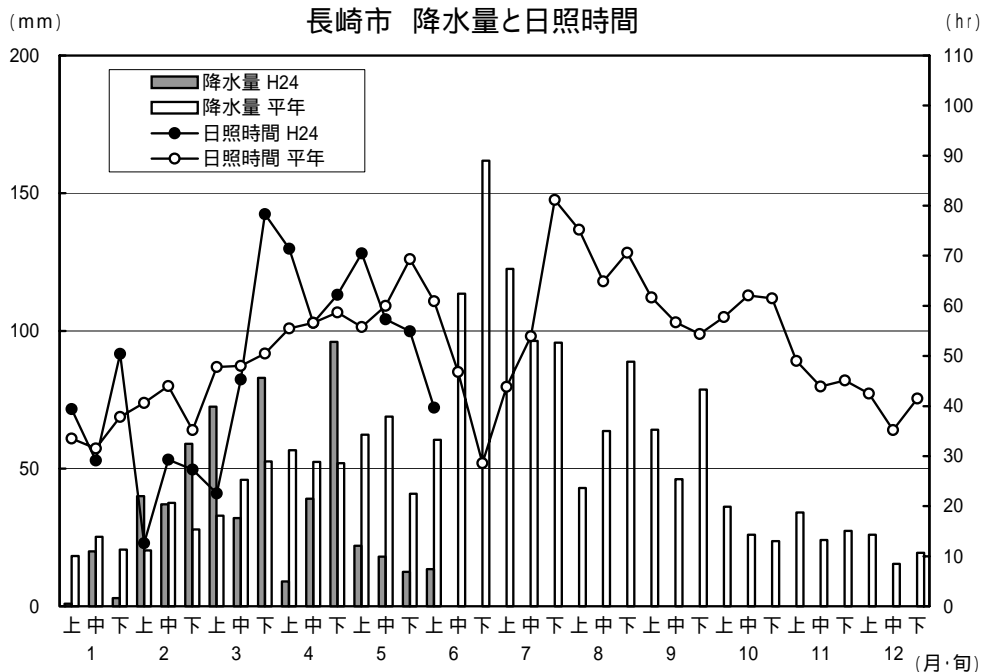
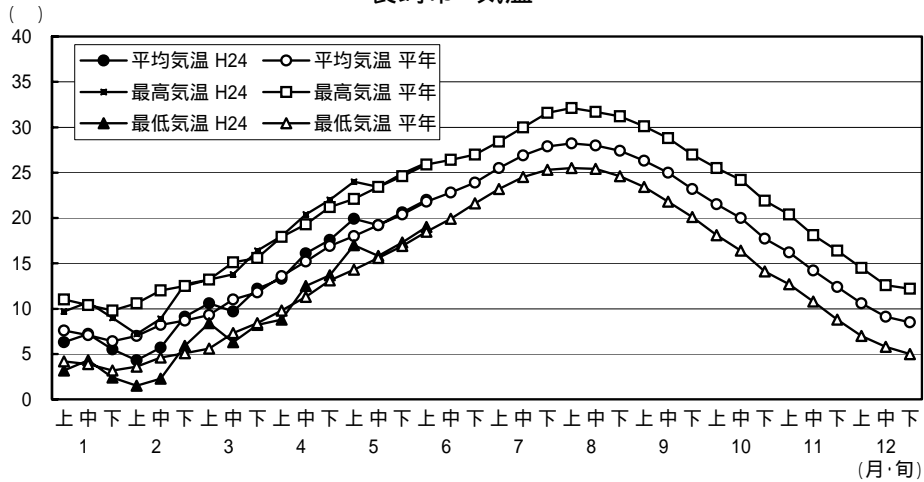
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	20	40	40
日照時間	30	40	30

予報対象地域：九州北部地域

平成24年の気象経過(長崎海洋気象台)

長崎市 気温



6月1日から8月31日までの3ヶ月間を「農薬危害防止期間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnp.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027